

多治見JCの軌跡

市民憲章制定 1962年

多治見市は日本の陶磁器産業の中心として、また東濃地方における文化行政の中心として、そして将来は名古屋市を中心とした中部経済圏の一翼となって輝かしい発展が期待されておりました。

産業発展の為の豊かな資源、観光開発の為の条件、人材を育てる教育文化の施設、更には交通の便等非常に恵まれていましたが、更にもう一步近代都市として発展する為には、6万人の市民(当時)が一致団結して郷土を愛し、郷土発展の為に努力していくことが求められていました。そこで岐阜県他の都市に先駆け、市民全員が多治見市を愛し郷土発展に一致団結していくための「合言葉」また「道しるべ」となる市民憲章を制定すべきだという考えに至りました。

市民憲章制定までの道のりは平坦なものではなく、多くの多治見市民の意見を集約し、専門家や教育委員会との話し合いの場を設け、綿密な調査・研究後、最終草案は社会福祉委員会がまとめ、7月30日に多治見市議会に提出、満場一致をもって原案通り承認されました。そして1962年8月1日市制22周年記念日より直ちに発行され、全市民に発表されたのです。



多治見市民憲章碑(1964年設置)



多治見市制記念式典における市民憲章朗読披露

交通安全運動 1957年～1978年

1950年代から1960年代にかけて交通戦争が社会問題となり、多治見署管内においても交通事故発生件数の増加が大きな問題となっていました。このような時代背景のもと多治見青年会議所は、地域の交通問題を解決していくことを通して社会開発に寄与しようと、児童危険防止標識設置に始まり、交通安全パレード、1970年の創立15周年記念式典には交通安全映画「ぼくらのまち横断歩道」を上映、翌年には15周年記念事業として交通安全塔(池田町)寄贈致しました。1972年には日本青年会議所東海地区協議会より褒賞社会開発推進賞をいただく等数多くの事業を行い、1978年「交通遺児1日旅行(伊吹山)へ招待」まで続けられました。



交通事故防止市民会議



交通安全塔(15周年記念事業)

土岐川を美しくする運動～リバーパーク運動 1964年～1999年

多治見青年会議所は1964年から土岐川を美しくする運動を始め、土岐川の環境に関わってきました。しかし、「土岐川の水は白くなればなるほど、地場産業である窯業が盛んな証拠である」という地域の認識もあり、水質汚染問題視すること事態タブーとされていました。

しかし、新聞等において土岐川の汚染が伝えられるようになり、公害問題として1971年に青年会議所も行政・企業・学職経験者・住民の方々と公害防止市民会議を開催するなど、公害防止を訴え始めました。1972年には廃液を垂れ流していた工場が摘発され、厳しい処分を受け世間に知られることとなり、環境基準などの規制が厳しくなってきました。

1974年に青年会議所はラブ・タウンキャンペーンを提唱し「私たちの川を美しく」と呼びかけ1200人の市民の参加を得て清掃活動と、翌年には「土岐川を美しくする会」が発足するなど川の再生を願いました。

1991年多治見青年会議所は土岐川を憩いの場、集いの場、遊びの場となるよう「リバーパーク運動」を提唱し、数々の事業が展開され、1998年、1999年には土岐川親水化事業「土岐川こどもまつり」などの事業を展開致しました。



「土岐川を美しくする会」設立総会



リバーパーク運動 こいのぼりを大空へ

高度成長期、飛躍的な経済発展を遂げる一方で、社会福祉の分野、特に心身障害児対策は遅れており、そのような子どもたちの自立、援護に対する施設等には十分手が行き届かない状況でした。そうした背景の中、「恵まれない子に愛の手を」をテーマに第1回チャリティーセールが、1970年4月に多治見市の恒例行事である陶祖祭茶碗まつり会場にて15周年記念行事として開催され、以降時代背景にあったテーマで毎年行われました。

1995年からは、陶器を通じてこのまちに愛着を持っていただく事業として、陶器まつり協賛セールを開催、収益金は社会福祉及び社会開発事業に役立てられました。

そして2002年、郷土の誇る伝統ある陶器文化を伝えるというまちづくりの観点から、「国際陶磁器フェスティバル美濃'02」に子ども達の作品を展示することに併せ、作陶体験をしていただきました。

それ以降この体験型の協賛事業を開催し、親子のふれあいの場としても優れた効果を発揮し、市民の方々に楽しんでいただいています。



陶器まつりチャリティーセール



作陶体験及びジュニア陶芸フェスティバルのPR



絵付け体験

多治見少年少女合唱団

1973年～

1972年度理事長が裾野J.C.認証式に出席した折、そこでの少年少女合唱団に感動され、多くの少年少女に、わが街、わがふるさとに少しでも強い愛着心をいただいていたための一環として、多治見市に合唱団を結成したらどうかというのがそのはじまりでした。当時多治見北高等学校の谷村先生にお話しを持ちかけ結成に向けての第1歩がスタートしました。

その後、谷村先生を筆頭に拓殖先生、田中先生、野呂先生らのご協力を経て、現在では小学1年生から20代まで約80人の団体に成長しました。発足当時は、青年会議所がバックアップさせていただきましたが、その後は育成会という組織も立ち上がり、育成会が主体となって各事業を行うようになりました。

1992年にグロスマンコンテストにて金賞受賞、毎年行われる定期演奏会の他、京都で行われた「世界合唱シンポジウム」、東京、金沢など各地で出演をし、また、世界にもその場を広げ、2007年7月には台湾で公演をしました。現在、新たな取り組みとして、「ミュージカル ライオン・キング」に挑戦しております。



第1回 定期演奏会



クリスマス コンサート

ラブ・タウンキャンペーン 1974年～

1974年にスタートしたラブ・タウンキャンペーンは、J.C.運動の中核として多くの事業を展開しました。ラブ・タウンキャンペーンの趣旨・目的は、全市民が郷土愛に立ち、相互理解・相互援助の精神のもと自然環境の保護と住みよい街づくりを展開してゆく運動の発信であり、多くの市民を巻き込んだ市民運動でありました。以下に展開された事業を紹介します。「陶器まつりチャリティーセール」「アユ・コイの放流」「魚つり大会」「献血」「写真展」「絵画ポスター展」「作文募集」「植樹」「らぶ・たうん市民版」「有限の郷土資源の発行」「土岐川を美しくする会の発足」等々です。

ラブ・タウンキャンペーンの精神は、36年の時を経て現在に受け継がれています。



魚つり大会



土岐川清掃



市民版「らぶ・たうん」発行

1974年より青年会議所が進めてきた「ラブ・タウンキャンペーン」の一環として、1975年に第1回青空広場が開催されました。それまでは市民盆踊り大会に協賛という形で参加していましたが、J Cの枠から外れて市民と一体となった事業ができないものかという発想のもとで新しいまつりを考えようということになりました。

1978年には経済不況で中止になっていた花火大会復活を目指し、誰も引き手の無かった花火大会実行委員会の委員長に理事長が就任し、多くの方々が心待ちにしていた市制花火大会が10年ぶりに復活しました。

1982年、青空広場の会場を新しく完成した文化会館に場所を移し、人づくり・まちづくりを中心とする行事を取り入れた「市民広場」がスタートしました。

1997年には、時期を同じくして行事を行っている諸団体と連携協議会を結成し、「みんなでてりゃあ夏まつり」が開催され、各団体の中でも多治見の夏まつりを創り上げようという意識が高まりました。メインイベントの「ござっせ」には、毎年50チーム約800名が参加し、「夏まつり」に花を添えています。



青空広場 魚のつかみどり



市民広場92 (PARTY)



青空広場 当時のポスター



みんなでてりゃあ夏まつり「ござっせ」



みんなでてりゃあ夏まつり協賛事業
「まちにあるいろんなやくわりを体験してみよう」

修道院保存運動 1978年～1989年

心の故郷を取り戻すラブタウンキャンペーンのもと、1878年より修道院を舞台にさまざまな行事が展開されてきました。これは私たちの町のシンボルである壮大な修道院が近々取り壊しの運命にあるというニュースが発端となったのです。なんとか丘の上にそびえる修道院を保存できないだろうか。そう考えた先輩たちは、神言会に働きかけて市民の気持ちを訴えました。幸いこの働きかけは神言会幹部の心を動かし修道院が市民の本当のこころのいこの場として必要であるならば保存しようという返事をいただきました。

以来修道院コンサート、修道院ぶどう祭、修道院をテーマにした絵画展、修復資金を集まるためのチャリティー陶芸展等の市民参加の催しを開催してきました。



第1回 修道院コンサート



第1回 ぶどう狩り

1983年度、「国際化への対応」の基本方針のもと、「国際的視野に立った幅広い人間の育成をめざして」をテーマに中学生・高校生を対象に第1回英語弁論大会が行われ、以後定期的で開催されるようになりました。また、英語弁論大会の開催を契機に、より時代の要請に応え、創造的に活動するには、国際化推進のための市民組織の結束が必要との方針が押し進められ、民間と行政が一体となり海外の諸都市・諸団体との交流を推進する母体としての多治見国際協会が設立されました。



第24回 英語弁論大会



第25回 英語弁論大会

国際陶磁器フェスティバル 1986年～

我々の住んでいるこの美濃の地は、過去から現在に継承するすばらしい伝統である陶磁器なくしては、企業・生活等考えることはできません。この伝統・文化を守り、この地域の活性化を図り、この伝統ある美濃の地が、名実ともに「世界の陶都」として国際的にクローズアップされるものはもちろん、そのシンボリック事業として本フェスティバルが更に充実化され、それに関連する形で地域活性化に寄与する事を目指し、主催者の一員として「国際陶磁器フェスティバル」に参画することになりました。

このフェスティバルは、美濃が世界のデザイナーやアーティストの人的交流の場として、陶磁器デザイン・技術・文化など情報交換の場として、国際的な役割を果たしていくことをめざし、3年ごとに開催されています。



ジュニア陶芸フェスティバル

国際陶磁器フェスティバル美濃'05
「鹿雲斎 千 玄室大宗匠による記念講演」

環境問題～青少年健全育成 1993年～

地球環境規模で環境問題が大きくクローズアップされる中、1993年に「美しい環境を子ども達の手」を理念とし、環境問題に取り組み始めました。私たちのまちの次世代を担っていく子ども達への働きかけがなければその活動は一時的なものとなります。この運動は毎年子ども達と関わりを続けていき、環境問題に対する取り組みに留まらず、青少年の健全育成事業へと受け継がれていくこととなります。

2000年から2003年の4年間は、従来の環境問題を通した子ども達への関わりのみならず、心の教育をテーマとし活動を続けました。

2004年からは次世代育成委員会を立ち上げ、次世代を担う青少年を育成すべく、育成対象者をスタッフ側に取り込み「歩いていこう60km! 2泊3日の旅」、2005年にはまちを担う人材になれるように自主性と豊かな人間性を育むことを目的に「あるある探検隊I・II」を行い、2006年には中高生の世代に自主性と責任感を促すことの出来る事業として「多治見ムービーワークス」を開催 2007年には「おもいやり」をキーワードとして地球村において1泊2日の合宿を開催、2008年には利他の心を育むことを目的として、お寺での合宿及び老人ホームでの出し物発表を行いました。

2009年には、感謝や尊敬、思いやりの心と、ふるさとへの愛着を育むために、虎渓山周辺で「サマースクール」を開催し、現在に至ります。



こども環境フォーラム (1994年)



歩いていこう60Km! 2泊3日の旅 (2004年)

1997年より、お互いに毎年訪問して交流することが可能で、JC活動に対して熱い情熱を持っている海外青年会議所として、韓国濟州南元JCとの交流を3年後の姉妹締結を目指してスタートしました。スポーツ交流、食文化の交流などを通して相互理解と友情を深め、2000年の多治見JC創立45周年に姉妹締結をしました。その後、毎年、お互いの国を訪問しあい、様々な事業交流を行い、家族を含めた交流まで拡がり、異なる文化や価値観を受け入れる幅広い国際的な資質の開発に加え、お互いのアイデンティティの再認識に繋がってきています。2010年には姉妹締結10周年を迎え、更なる交流の進化をし続けております。



韓国濟州南元青年会議所との姉妹締結調印書



2007年 南元JC来多

公益社団法人格の取得に向けて 2007年～

2007年に公益法人制度改革関連3法が成立したのを受け、多治見青年会議所としても方針を明確にし、公益社団法人か一般社団法人かの選択が必要になりました。2007年度には、メンバーにこの改革の正しい知識を身に付けていただきました。2008年度には、我々の組織の目的を再認識することにより、公益社団法人格取得に向けての意識の高揚を図り、9月の臨時総会にて公益社団法人格の取得の決議をいたしました。

2009年度には、真の公益に値する組織の構築を目的とし、定款諸規定の変更を行い、公益社団法人格の取得に向け具体的に動き出すこととなりました。このことにより、設立の目的や存在意義、何の為にJC運動を行っているのかという根本的な問題を検証し、議論できる組織へ変革していくきっかけとなりました。また、今まで以上に市民と共に協働することで、理解と協力を得られる組織に進化するきっかけとなりました。

2007年6月例会 講師：加藤 秀樹氏
「What's 公益」2008年6月例会 講師：加藤 秀樹氏
「公益法人制度改革に向けての意識の高揚」

政治・行政への参加意識の醸成 2009年～

我々の目的である「明るい豊かなまちづくり」の為に、政治や行政の問題は切り離して考えることができません。我々を含めた多治見市民が自分たちの住む地域を良くする為に、まちづくりに参加できる自立した地域を目指して様々な活動がスタートしました。

2009年度には、「Heart of Tajimi - たじみ市民討議会2009-」を開催しました。市政に対して市民の声なき声をくみ上げる為に、無作為抽出による46名の市民が4つのテーマを討議し、その結果を市民提言として多治見市に提出しました。市民、行政、各種団体が主体的に参加し、ベクトルを合わせ、行政課題を一緒に考える機会をつくることができました。

また、市民の政治離れが顕著になっている中、政治を身近なものと感じていただき、政治に関心を持っていただく為に衆議院議員総選挙における公開討論会を開催しました。候補者3名の参加のもと、公正・中立な立場で我々が開催することで、市民と政治を繋ぐことができ、市民に政治に参加する意識を高めていくことができました。



「Heart of Tjimi-たじみ市民討議会2009」



市民提言書の提出式



衆議院議員総選挙 公開討論会